



2022年3月1日

岡山県赤磐市

赤磐市長 友實武則 様

拝 啓

立春の候、貴殿におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃よりニュージーランドと日本との二国間関係に多大なるご理解、ご協力を賜り、深く感謝いたしております。本日はニュージーランド大使館を取り巻く近況をご報告すべく、お手紙を差し上げます。

私たちと新型コロナウイルスとの闘いは2020年春から第六波の現在まで既に2年にわたり、日本のみならず世界はこれまでに経験したことのない状況に陥りました。各国はそれぞれの策を講じてはいるものの、なかなか収束にまでは至りません。このようななかで、昨年夏に日本政府は一年延期した東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を成功へと導きました。皆様におかれましては、ニュージーランド代表チームを様々な形で応援いただき、心より御礼申し上げます。お陰さまで金7個、銀6個、銅7個を含む過去最多となる計20個のメダルを獲得できました。リサ・カリントンはカヌー競技において3つの金メダルを勝ち取ってニュージーランド歴代最多記録を更新し、パラリンピックの水泳ではソフィー・パスコーが水泳で金メダル2個と銀と銅メダルをニュージーランドにもたらししました。また、2020年12月に始まったAPEC（アジア太平洋経済協力会議）は、昨年11月に最終高級実務者会合を完全なバーチャルで行い、ニュージーランドは議長国としての務めを無事に果たしました。

コロナ感染拡大は私の大使としての行動を大きく阻むものでもございました。大使館でのイベントの開催、参加、対面での面談は制限され、東京は元より、地方の方々をお訪ねすることは殆ど不可能でした。

このような厳しいコロナ禍ではありましたが、北海道を管轄するニュージーランド名誉領事に、(株)きのとやの長沼昭夫会長が就任してくださり、昨年10月には私も札幌に赴き認証式を執り行いました。またその他、名古屋の林謙治名誉領事、大阪の井上礼之名誉総領事、福岡の倉富純男名誉領事らには其々の地域で継続してニュージーランドを代表していただいております。大変有難く存じます。

この間、ニュージーランド政府は厳しい水際対策を維持してまいりましたが、つい先頃アーダーン首相が感染状況を注視しながら、海外からの入国者を段階的に緩和し、10月を目途に入国規制を完全に撤廃する意向を示しましたことは誠に明るい兆しでございます。一年延期されたラグビーワールドカップ(女子)の初戦は現時点で本年10月8日にオークランドで予定されており、日本代表チームの活躍が期待されます。さらに特筆すべき事項として、今年ニュージーランドと日本は外交樹立70周年を迎えます。この書簡に記載されているロゴを使用し、お祝いの機運を盛り上げてまいる所存でございます。状況次第ですが、本国から要人を日本に迎えた記念行事が出来れば喜ばしい限りでございます。SNSを通じて情報発信をいたしますので、大使館のFacebookやInstagramを時折ご覧いただけますと幸いです。

これまでの70年にわたる良好な外交関係を礎に、さらに広く、深い二国間関係の強化を目指し、コロナと共存しながら皆様と改めて繋がれる機会を模索したく存じます。引き続きご支援賜りたく何卒宜しくお願い申し上げます。時節柄どうぞお身体をご自愛ください。近いうちに皆様と直接お目にかかれそうです、楽しみにしております。

敬 具



駐日ニュージーランド大使

ハイミツシュ・クーパー



CELEBRATING 70 YEARS
OF DIPLOMATIC RELATIONS